

ま さ き 麻佐岐遺跡

～聖なる正木山の山頂に鎮まる磐座～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 「鳥の目」で
5. アクセス

資料
番号

K5

初版：2025.10.29



磐座



石畳の参道

1. おすすめポイント

★「聖なる山」、「山頂磐座」、「本殿のない式内社」

100mに渡って続く石畳の参道を進むと古代にタイムスリップしたような感覚になります。

吉備最古級の「祈りの場」が現代まで連綿と維持されている尊さを感じてください

2. 説明

参考文献 1) によれば、正木山は大嘗会和歌の題材にされており、既に鎌倉時代の初期には平安貴族に知られていたとのことです。

山頂には磐座の他にも古墳や雨乞いの場などがあり、ここが古くから「祈りの場」として大切にされてきたことが解ります。

一、鎮座地 総社市秦四〇二五―一
二、社格 式内社 村社
三、御祭神 磐座 大国主命
四、御神体 磐座
五、創建 西暦三七七年の説もある 吉備国最古
六、祈願 国家安泰・家内安全・五穀豊穡
七、祭日 毎年四月第四日曜日
八、由緒

麻佐岐神社の由緒

当社は吉備の国最古の創建であり、鎮座地の全山を正木山と称し、山頂の霊石を霊代（ミタマシロ）としているため、本殿は無く、山腹の大畝谷に祓所がある。延喜式内社であり、本国一宮格を定められた。また、岡山藩主池田氏においても旱魃の時は祈雨の祈願所と定められ、非常の災害流行病などが起こった時には、藩主が祈願の奉幣を行った。享保十八年丑歳五月岡山藩主池田継政の自筆による五穀成就祈願の守箱が現存する。

祭神は備中誌には天照大神、吉備郡神社誌には大国魂神とあり、明治四十年に村社に列格する。

「備前国式内書上考録」の内の「備中国式内十八社之内四座岡山藩支配書分書上」に「山上に霊石二顆大小二つの粗なる石の玉垣もてかこひ前に一間四面の拝殿立てあり当山は郡中の高山にて四方の眺望甚よし一山樹木なく絶頂に松木四五十本あるのみなり。如此高山にてうつくしき山なれば社はなくてただの正木山を神体として奇き祭れるものならんか」と記されている。

その姿は今は緑深くはなっているが、南方の眺めは素晴らしく、遠く瀬戸内海が展望される。

麻佐岐神社の祭神は古来この磐座（巨岩）と云われ、磐座信仰の姿が今に残る。社地は極めて狭く、それらしい社殿の所在した跡は見当たらない。現在簡素な板囲いの幣・拝殿兼ねた一棟が平成二十五年四月氏子崇敬者の寄進により再建された。磐座とは岩石などに神を招いて祭祀を行う神聖な磐境、岩肌のある場所や見晴らしの良い高山や容易に近づけない山頂などである。当社は清浄な磐座を聖地として注連縄を掛けて、古来から守っている。

平成二十五年四月

麻佐岐神社社務所

磐座前に建つ幣・拝殿の中に掲載されている由緒書き



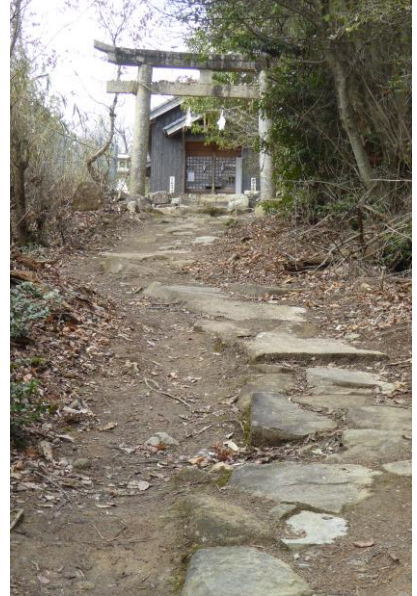
2-2

幣・拝殿の中に掲載された配石図

3. 現地写真



3-1 石畳参道の入口には結界を示すような一対の石が



3-3 石畳参道も残りわずか



3-2 石畳参道の先に鳥居が見えてきました



3-4 幣・拝殿を兼ねた建物



3-5 左の玉垣内に磐座が座す



3-6

幣・拝殿を兼ねた建物背後に磐座がある



3-7

磐座近景



3-8

磐座背後の遺跡群（2章の配石図参照）



3-9

奥は「雨乞い」の場（2章の配石図参照）

4. 「鳥の目」で



4-1



磐座

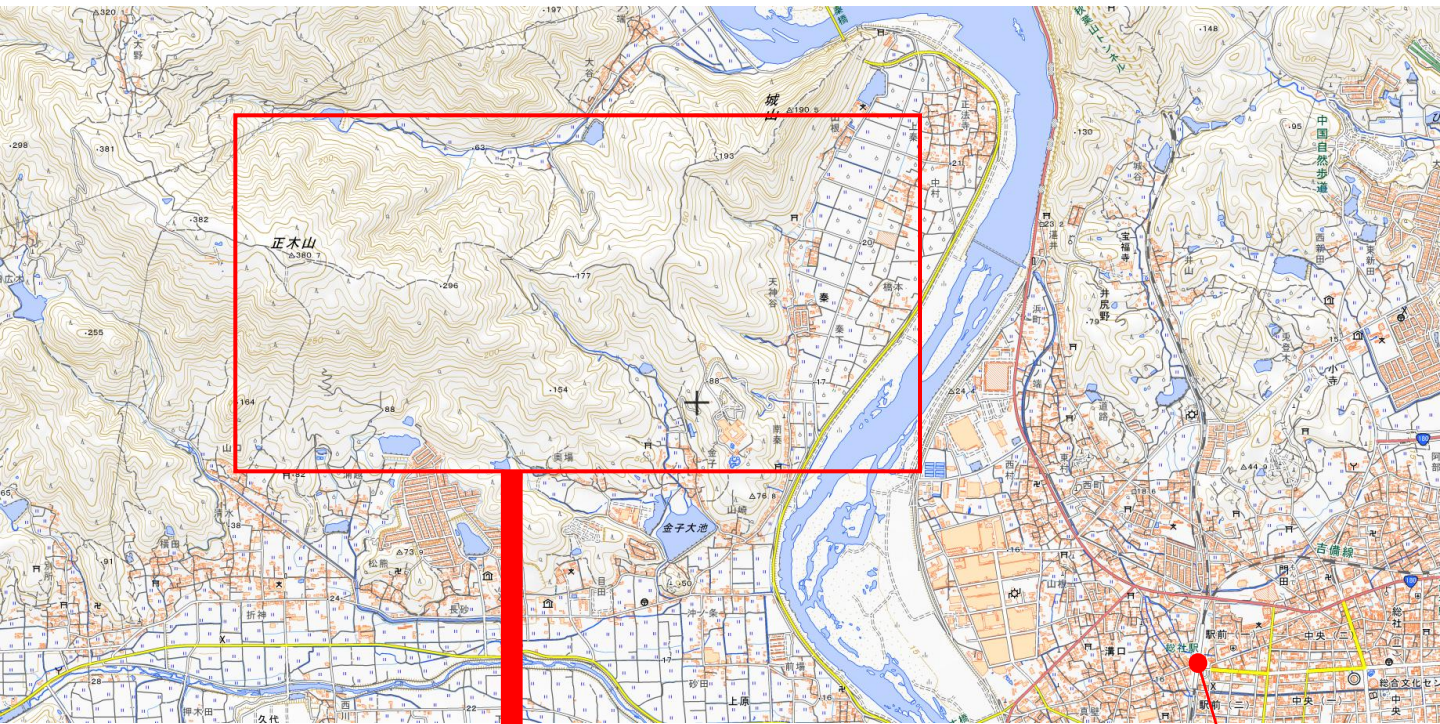
東方を望む



4-2

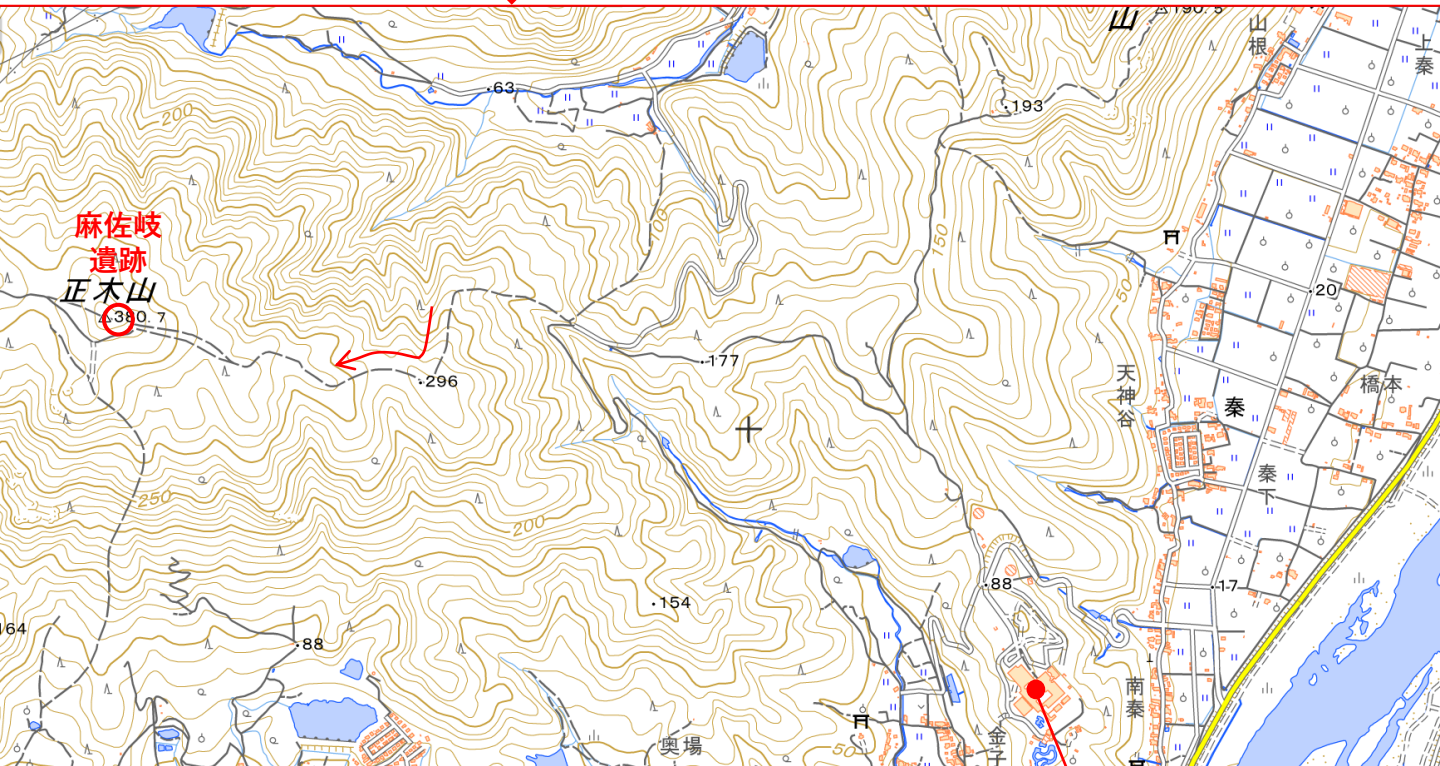
南南東を望む

5. アクセス



地理院地図に赤で追記

J R 総社駅



地理院地図に赤で追記

サントピア岡山総社

参考文献

- 1) 薬師寺慎一. 考えながら歩く吉備路（下）. 吉備人出版, 2009, 171p.